

高等学校美術科学習指導案

1. 題材名 ジャコメッティにせまる
2. 題材作品 アルベルト・ジャコメッティ 《ヤナイハラ I》1960-61年
 ブロンズ H43.2cm × W29.2cm × D12.7cm 国立国際美術館蔵
3. 実施学年 第2学年（1学級20名の設定）

4. 学習指導要領との関連

3 内容 B鑑賞 ア

(ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めること。

5. 題材の概要

生徒一人ひとりが作品《ヤナイハラ I》に対して、自分なりの疑問や問いをもって美術館で鑑賞活動をするため、ワークシートを用いた事前学習をする。また、粘土による塑像制作体験を行う。この事前学習では、美術館での実物作品を前にして、生徒自身が様々な視点を持ち、作品から多くの事を感じ取る為に取り組ませる。

次に、美術館に行き、作品を個人・グループ、学芸員と共に鑑賞をし、自分なりの作品の解釈・理解を深め、多様な視点を持つことができるようにする。さらに学校で、美術館鑑賞で感じた気づきや感動をもとに再度粘土による塑像制作を行う。指導者は、1回目・2回目の制作時に生徒作品を写真撮影し、生徒作品の経過を記録しておく。生徒は、鑑賞の前後、塑像制作後にワークシートを使って、《ヤナイハラ I》と自身の作品に対する気づきや思いをメモし、文章にまとめておく。最後に、写真付きのワークシートを使って、鑑賞と制作のプロセスを振り返り、生徒一人ひとりの変容を全体で共有できるようにする。

6. 題材目標

- ① 作品鑑賞や意見交換などを通して、他者の見方や感じ方を知り、自身の作品の見方や感じ方を深めることができる。
- ② 作品制作やワークシートなどを通して、自身と他者の価値観の変容に気づき、多様なものの見方・感じ方を理解することができる。

7. 準備物

指導者：ワークシート、ジャコメッティ資料集、彫刻作品集、油粘土、粘土板、カメラ、付せん

生徒：筆記用具

8. 授業展開(全8時間)

	学習活動	指導内容および留意点
2時間	● 写真で作品を鑑賞する。20～30分 ワークシート①（別紙参照）左半分を使用。	<ul style="list-style-type: none">・ ジャコメッティの資料のほかにも、違った表現の作家の彫刻作品の写真も提示し、表現の違いなどを比較させてもよい。・ 鑑賞する中で、自分なりに抱いた問いをワークシートに書き込むよう促す。・ 机間巡視・発問などを行い、個々の中での問いを深めさせる。

	<p>● 立体作品（塑像）の制作体験 油粘土1kg・粘土板・モデル（クラス内でペアになる）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 制作 ・ 記録写真①②（指導者が撮影） ・ 体験後の感想をワークシートに書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頭部、トルソー、胸像など、形状は生徒の実態に合わせる。 ・ 時間を区切り（15～20分）、ペアのそれぞれが立体作品を制作する体験ができるよう配慮する。 ・ 指導者は記録写真を撮る時刻を決め、必ず①（授業中盤）、②（授業終盤）の2枚を撮影する。
<p>2時間 美術館</p>	<p>● 作品鑑賞① 個人で鑑賞する。 ワークシート①右半分を使用。</p> <p>● 一部意見を共有する</p> <p>● 作品鑑賞② ペアになり鑑賞する。 ペア同士4人、6人で話してもよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の授業（立体作品を制作する体験）で、得られた観点を持って鑑賞するよう促す。 ・ まず一人で鑑賞させ、自分の問いの答えを自分なりに出すよう指導する。 ・ コピー用紙などにスケッチしてもよい。 ・ 次の制作に向けて、感じたことや考えたこと、印象やイメージなどをメモしておくよう声かけを行う。 ・ 多様な意見の一例を挙げ、フィードバックする。 ・ リアルさ以外の表現の良さ・面白さに気付かせる。 ・ 学芸員の方も加わってもらうようお願いする。 ・ 必要であれば、『ヤナイハラ I』という作品は作家本人が完全に納得して鑄造に出したかは分からないことを示す。 ・ 意見交換する中で、感じたことや考えたこと、気づいたことなどをワークシートに書き込むよう促す。
<p>2時間</p>	<p>● 学校にて、ワークシート①を掲示し、付せん鑑賞（以下）を行う。 付せん配布、それぞれのワークシートのコメントや作品写真に対して感想を書かせる。生徒同士の感想を共有し合う。</p> <p>● 立体作品（塑像）の制作体験 続き 油粘土1kg・粘土板・モデル（クラス内でペアになる）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の作品にさらに手を加える ・ 記録写真③④（指導者が撮影） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の前半（10～15分）に実施する。 ・ 付せん鑑賞を通して、自分が考えていたことや他者が感じていたことを共有させる。 ・ 時間を区切り（15～20分）、ペアのそれぞれが立体作品を制作する体験をできるように配慮する。 ・ 指導者は記録写真を撮る時刻を決め、必ず③（授業中盤）、④（授業終盤直前）の2枚を撮影する。 ・ 立体作品は完成させなくても良い。 <p>【補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 再度立体制作へ向かわせるのは、鑑賞で感じたことを、作品を通して表現するためである。 ・ 言葉で表現することが苦手な生徒へも配慮する。
<p>2時間</p>	<p>● まとめ ワークシート②（別紙参照）に記録写真をはり付け、感想などを書き込む。</p> <p>● ワークシート②を掲示して付せん鑑賞を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 付せん鑑賞を通して、自分が作品にかけた思いや他者がどのように考えて作品制作を行っていたかを共有させる。 ・ スペースや時間が許せるのであれば、作品と並べて展示してもよい。